

# 福祉文化通信

～ Well-being への道～

2019.9.16  
Vol. 89

●発行／広報委員会  
徳田 真彦・稲田 泰紀  
●作成／長瀬 さやか

〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町4-4-13 南星ビル701 Tel / Fax: 06-4963-3410 E-mail: fukushibunka@lagoon.ocn.ne.jp  
日本福祉文化学会事務局 ホームページ: http://fukushibunka.hippy.jp/



中京大学名古屋キャンパス

11月30日(土)・12月1日(日)は名古屋にいらして。記念すべき第30回大会が名古屋で開催されます。30年目の節目ですが、過去の振り返りに留まらず、これからを見据えるという未来志向型での大会開催を企画中です。これまで3回の東海大会実行委員会を開催し、メンバーの知恵を振り絞りつつ、一丸となって準備を

進め、皆様方をお迎えします。本大会では、「人材育成」と「アート」をキーワードとし、平成時代の幕引きとともに、新元号「令和」の下、住民主体による地域社会の再構築を目ざし、新しい福祉文化の風を吹き込む意味で、「福祉文化元年」を強調します。両日とも目玉を用意し、初日の記念講演では、浅田真央、小塚崇彦、室伏広治ら

五輪メダリストを育てた湯浅景元氏(中京大学名誉教授)をお迎えし、「流アスリートへのコーチング」の可能性を引き出すために」と題し、人を最大限伸ばす秘訣をうかがいます。一方、2日目の市民公開講座では、カレイ屋Coco壱番屋の創業者である宗次徳二氏(NPO法人イエローエンジェル理事長)をお迎えし、「私のカラーな人生」と題し、ご本人の足跡や会社・企業における人づくりのコツをうかがいます。その他、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉の実践事例から福祉の原点を探るシンポジウム、子ども食堂や交流ワークなどを含む5つの企画からなる交流分科会、子どもの創作絵本を体験できるワークショップ、そして、興正寺ツアー、音楽療法、PD Cafe名古屋など5種類の現場セミナーなど、企画満載となっております。

## 東海大会スケジュール

11月30日(土)  
開会セレモニー  
基調報告  
記念講演【湯浅景元氏】  
休憩(ロビー展・パネル展)  
交流分科会(企画①～⑤)  
懇親会

12月1日(日)  
総会  
研究発表・ワークショップ  
ランチコンサート  
市民公開講座【宗次徳二氏】  
閉会セレモニー  
現場セミナー(1～5コース)



第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会  
実行委員メンバー

名古屋発の福祉文化の創造が花開き、諸々の活動が活性化することを念願します。是非、多くの方々に大会参加のお声掛けをいただき、皆様方とともに有意義な時間を共有いたしましょう。それでは、大会当日、名古屋でお会いしましょう!!

## NAGOYA 名古屋

東海大会 大会実行委員長  
アビール

第30回日本福祉文化学会全国大会・東海大会  
名古屋発、「福祉文化元年」を築く  
——今こそ、人を育てる、アートを創る——  
2019年度第30回日本福祉文化学会全国大会・東海大会  
実行委員長 中島洋(中京大学)



第30回日本福祉文化学会  
全国大会・東海大会  
2019(令和元)年  
11月30日(土)～12月1日(日)  
中京大学 名古屋キャンパス  
センタービル(0号館)6階  
(〒466-8666 愛知県名古屋市昭和区  
八事本町101-2)

山折り

## 事務局の様子

事務局長 岡村 ヒロ子

事務局が大阪へ移り、二年目に入りました。右往左往、戸惑う中で事務局業務の一年の流れをようやく掴んだところです。分からないことはとにかく先輩に聞く、そんな繰り返してました。会員の方々・諸機関からのさまざまな問い合わせ、入・退会の申し出、変更届、苦情等々に対応する中で、実感したことは「事務局はなんでも屋さん」つまり「困った時はとりあえず事務局」まさに縁の下を支える存在だということです。次長さんは複数体制をとっておりますが、皆、本業で重要なポストに就いている方々ばかりで気の毒なほど超多忙。そんな中、上手に時間を調整して任務を果

たして下さっています。パソコンに強いのがまさしく武器、頼もしい限りです。

早いもので2020年は選挙、つまり役員改選の年です。次期事務局体制へスムーズにバトンタッチできるように粛々と仕事をしていきます。皆様のご協力と応援なしでは心が折れてしまいそうです。お力添えをよろしくお願いたします。



## 新役員紹介

### 北の大地からご挨拶

北海道ブロック理事 小河 佳子

この度北海道ブロックの理事をさせていただくことになりました小河と申します。岡村さんから理事をと打診されお引き受けしました。しかし、4月から当法人の理事長を再度引き受けることになりバタバタ大変ご迷惑をおかけしております。

平成10年、障がい者のための作業所を大学の教員だった夫と共に立ち上げ、後に社会福祉法人となりました。施設を立ち上げた理由は、息子が重度障がい者で学校を卒業すると行く場所が無かったからです。

当時はまだ身体、知的、精神という3障害で分けられ、息子のような全盲で知的障害のある重複障がい者は何処の施設からも断られました。そこで障害の区別無く集える小規模作業所を開設しました。この時相談に載っていただいたのが石井パークマン麻生先生です。事業所を開設するにあたり北へも2回ほど視察に行き、10年前念願のグループホームも開設しました。現在息子はそこで生活をし美瑛の事業所へ元気に通所しております。

北の大地から沢山発信できるよう頑張りたいと思います。

## 新規会員情報

NEW MEMBERS

中部東海ブロック  
大島 直也  
所属：大島治療院



私は訪問鍼灸師をしている者です。高齢者や障害児者へ、在宅・施設に赴き施術を行っております。

その関係もあってか、医療色よりは介護福祉や社会福祉、児童福祉の視点を持って活動しています。最近の実践では、高齢者サロンで介護予防運動、パーキンソン病の方のサロンや児童デイで卓球療法、学校福祉の観点から小中学校へ訪問して体育の授業や運動部の児童・先生へ身体のアドバイスをを行う学校トレーナー活動等々動いております。

このような活動を一貫性がないと思われてしまいがちですが、私の中で「身体活動による心身の健康が福祉になり、それを文化にする」という考えがある為、何もブレはおりません。そしてそれを面白いと思っておられる方々が、貴学会には多くいらっしゃる気がしました。今年も第30回大会という節目の時期に実行委員として関わることができました。微力ながら皆様とともに「福祉文化元年」を築いていきたいと思っております。

## 会員情報

- 2019年7月20日までに新規でご入会された方のお名前と所属ブロックをお知らせいたします。(敬称略)  
〈個人会員〉末吉 みゆき、福井由佳、中川たかこ、長谷川 恭子、望月由美子、山下 道子、増田淑子、杉本佳代、大島直也、望月 旬子、望月 隆仁、古橋 佑師、鬼頭美津代(中部・東海)、高井 裕二、新井 康友(関西)、倉田 康路(九州)、木口 恵美子(関東)  
〈団体会員〉宗教法人興正寺 川村 恵子
- 2019年7月20日現在  
〈会員数〉個人会員 255名 学生会員 11名 団体会員 9団体

福祉文化通信の編集作業を行う中で、さまざまな活動報告やこれからの活動情報を目にしましたが、改めて、協会とは会員によって作られているものだと感じます。会員各々の熱い気持ちや願いが文章を通して伝わってきました。また、新たな理事や会員を迎え、さらなる盛り上がりを見せるのではないかとワクワクしながら編集を行って頂きました。最後になりましたが、本通信作成にあたり、ご協力いただいた皆さまにこの場をお借りして感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

広報委員 徳田

編集後記

山折り

Pick up!!

関西ブロック

各委員会

事務局

事務局長  
岡村マコト

## 2019年度補正予算書(案)

\*2019年度補正予算書(案)が7月20日開催の第1回理事会にて承認されました。

2019年度予算書(案)については2018年度の総会で「理事会一任」との承認をいただいておりますので12月1日の総会まで(案)の状態にて執行させていただきます。お問い合わせは9月末日までに事務局までご連絡下さい。

## 2019年度補正予算書(案)

(2019年4月1日から2020年3月31日)

### ★収入の部

科目	2019年度予算	2018年度予算	差異	摘要
<b>1.会費</b>	<b>2,900,000</b>	<b>3,140,000</b>	<b>-240,000</b>	
一般会員	2,600,000	2,900,000	-300,000	280人分
学生会員	100,000	100,000	0	20人分
団体会員	200,000	140,000	60,000	10団体
賛助会員	0	0	0	
<b>2.書籍料</b>	<b>10,000</b>	<b>10,000</b>	<b>0</b>	販売収入 他
<b>3.寄付金</b>			<b>0</b>	
<b>4.雑収入</b>	<b>1,000</b>	<b>1,000</b>	<b>0</b>	
<b>5.前年度繰越金</b>	<b>1,161,561</b>	<b>689,332</b>	<b>472,229</b>	
<b>収入合計</b>	<b>4,072,561</b>	<b>3,840,332</b>	<b>232,229</b>	

### ★支出の部

科目	2019年度予算	2018年度予算	差異	摘要
<b>1.事業費</b>	<b>1,550,000</b>	<b>1,400,000</b>	<b>150,000</b>	
刊行費	550,000	400,000	150,000	福祉文化研究誌、福祉文化通信:年3回
大会	400,000	400,000	0	大会補助、研究プロジェクト助成含む
現場セミナー	0	0	0	
国際交流費	0	0	0	
委員会活動費	50,000	50,000	0	研究委員会・企画委員会他
地方ブロック活動費	450,000	450,000	0	1ブロックあたり5万×9ブロック
福祉文化実践奨励費	100,000	100,000	0	福祉文化実践学会賞、旅費含む
<b>2.事務管理費</b>	<b>1,910,000</b>	<b>1,835,000</b>	<b>75,000</b>	
消耗品費	60,000	50,000	10,000	事務用品他
通信費	250,000	170,000	80,000	宅配便・郵送料・電話代・インターネット接続料他
印刷費	20,000	50,000	-30,000	役員会資料・総会資料・会員向け資料印刷等
事務所備品	20,000	0	20,000	
書籍購入費	5,000	10,000	-5,000	書籍購入費用
会議費	20,000	30,000	-10,000	役員会・理事会・評議員会他
旅費	300,000	350,000	-50,000	理事会・評議員会旅費
人件費	300,000	420,000	-120,000	アルバイト代
事務所維持費	420,000	240,000	180,000	家賃など3.5万/月
ホームページ管理費	120,000	120,000	0	管理費・維持費・ホームページ管理:1万/月
選挙管理費	15,000	15,000	0	積立金
理事・事務局活動費	100,000	100,000	0	理事・事務局関係者活動旅費他
事務局長手当	240,000	240,000	0	
福祉関係学会連合会負担	30,000	30,000	0	学術会議負担:会員200名につき2万、定額負担1万
雑費	10,000	10,000	0	振り込み手数料他
<b>3.予備費</b>	<b>50,000</b>	<b>50,000</b>	<b>0</b>	
<b>4.支出小計</b>	<b>3,510,000</b>	<b>3,285,000</b>	<b>225,000</b>	
<b>5.次年度繰越金</b>	<b>562,561</b>	<b>555,332</b>	<b>7,229</b>	国際交流費積立金を含む
<b>支出合計</b>	<b>4,072,561</b>	<b>3,840,332</b>	<b>232,229</b>	

	<b>選挙管理費</b>
<b>積立金関係</b>	<b>30,000</b> (選挙管理費は簿外管理)

## 持続可能な買い物弱者支援を!

福祉の視点は、あらゆる分野やシーンにおいて今後ますます求められるということで、今年度は「異分野交流プロジェクト」に取り組んでいきます。第1回は、6月1日に、「福祉文化と商学から見た買い物弱者」について、近畿大学経営学部教授の高橋愛典(よしのり)先生に、商学の視点からご講演頂きました。

講演では、商学の定義から、流通の実態まで紹介いただきました。全国的にさまざまな取り組みがされていますが、定着、継続に課題は山積み。ビジネスとして成り立たず、モチベーションが低下。ネット通販の展開による引きこもりの増加をいかに抑制するか。まだまだ試行錯誤は続きます。

今後、個人ニーズの支援から、地域イベントとしての、住民のつながり、居場所づくりへの変換が重要ではと考えられます。



## 現・会員アンケート実施します!

みなさんの声を学会活動に生かしていきたいと考えていますぜひご協力ください。

時期:2019年11月30日(土)・12月1日(日)  
場所:第30回日本福祉文化学会全国大会(東海大会)会場  
中京大学名古屋キャンパス  
配布回収場所:大会受付(予定)

※全国大会へ参加できない方々へはメール等で順次実施していく予定です。  
※入会者、退会者の方々へはその都度実施していきます。

## 『子ども食堂を考える会』(仮称)発足について

近年、多様化する生活スタイルに伴い、貧困や虐待の問題も含めて、生きづらさを抱えて暮らす子どもが居ます。そのような子どもたちがイキイキと将来に希望を持って生活していくために、わたしたちにできることは何でしょうか。学校や家庭以外の子どもの居場所をつくり、子どもの育ちを“地域で支えていく”子ども食堂の活動について、研究者および実践者とともに福祉文化の視点で考える部会です。

- 対象:子ども食堂に興味のある、興味のない「本学会の会員」どなたでも。
- 活動:インターネット、メーリングリスト(Googleグループを予定)を活用してのやりとりを主に、実践や研究を情報提供。年に一、二回は地方の現地視察を検討。  
\*活動は学会ホームページに新設する「子ども食堂を考える会」サイトで紹介。
- 将来的な展望:  
本学会バージョンの『子ども食堂パンフレット』を作成。  
⇒事例や運営方法、トラブル対応集等々を盛り込む。  
みんなで『福祉文化実践学会賞』の受賞をめざしましょう!
- 申込み:好きなオニギリの具を添えて 稲田(メール:iwrx.17 あっと gmail.com)まで。  
\*あっとを@に変換。

# ブロック活動報告及び 委員会よりお知らせ

## “現場から学ぶ”を シンポジウムでも

大会シンポジウム・コーディネーター  
島田 治子

“福祉文化元年”と位置づけられた大会の中で開くシンポジウムは、さらに基本に戻って「福祉の原点を探る」とした。なぜなら、人口減少時代に入った日本では、経済成長期のようにお金や人をふんだんに使う福祉は望めないからである。では人間が健康で幸せな生活を送るために必要な本質的要素とは何なのか。それを探ってみようと考えた。

探るための方法論も原点に戻って考えることにした。日本福祉文化学会を創設した一番ヶ瀬康子初代会長は“現場から学ぶ”ことを最も重視したので、シンポジウムの登壇者は現場実践者とし、事例を話していただく中から、本質的なことをつかみ取ろうと考えている。

高齢者に関する実践例としては“近所福祉”と名付けられた活動例、子どもに関する実践例は子ども食堂の発展版である地域食堂の活動例、障害者に関する実践例では視覚障害者の伴走ボランティアの実践例を話していただく。この3例からどのような本質的要素が浮かび上がるのか。ぜひとも参加者ご自身の目と耳で確かめていただきたいと思っている。

